

ネオ・ダダの残響 *Echoes of* **NEO DADAISM ORGANIZERS**

赤瀬川原平 風倉匠 篠原有司男 田中信太郎 吉野辰海 +石黒健治(写真)

2026.5.11[月] - 5.30[土] ギャラリー58

【開催概要】

- 展覧会名 ネオ・ダダの残響
- 出品作家 赤瀬川原平 風倉匠 篠原有司男 田中信太郎 吉野辰海 +石黒健治(写真)
- 会場 ギャラリー58 東京都中央区銀座4-4-13 琉映ビル4F Tel 03-3561-9177
- 会期 2026年5月11日(月) - 5月30日(土)
- 休廊日 5月17日(日)、5月24日(日)
- 開催時間 12:00-19:00 (土曜日は17:00まで)
- アクセス 東京メトロ銀座線・丸ノ内線・日比谷線 銀座駅B1・B2出口より徒歩1分
- 入場料 無料

1960年に結成された前衛芸術グループ、ネオ・ダダ(ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ)は、従来の芸術概念を打ち壊すような過激なアクションやパフォーマンス、廃品を用いた作品などで美術界に衝撃を与え、一年にも満たない短い活動期間でありながら、反芸術の旗手として脚光を浴びました。

本展ではネオ・ダダのメンバーから、赤瀬川原平(1937-2014)、風倉匠(1936-2007)、篠原有司男(1932-)、田中信太郎(1940-2019)、吉野辰海(1940-)の作品と、写真家・石黒健治(1935-)が捉えたネオ・ダダの写真を展示いたします。赤瀬川原平は「虚虚実実実話櫻画報」(1973~74)の挿画原画、風倉匠はバングラデシュ・アジア美術ビエンナーレでのバルーンパフォーマンスの映像(1995)と平面作品、田中信太郎は鉛を用いた《余白の形而情》、そして篠原有司男と吉野辰海は新作を含む絵画を発表いたします。作品・写真・資料あわせて約50点を紹介します。



「第3回ネオ・ダダ展」日比谷公園でのパフォーマンス 1960年
左から吉村益信、升沢金平、篠原有司男 撮影:石黒健治

ネオ・ダダ (ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ)

1960年3月、第12回読売アンデパンダン展に出品していた吉村益信、篠原有司男らを中心に結成された前衛芸術グループ。吉村益信の自邸「ホワイトハウス」(磯崎新設計、新宿・百人町)を拠点に、イベントやパフォーマンスなど過激な活動を繰り広げた。1960年4月「ネオ・ダダイズム・オルガナイザー展」(銀座画廊)、7月「第2回ネオ・ダダ展」(吉村アトリエ)、9月「第3回ネオ・ダダ展」(日比谷画廊)の、計3回のグループ展を開催。メンバーには、赤瀬川原平、荒川修作、風倉匠、岸本清子、木下新、篠原有司男、田中信太郎、田辺三太郎、豊島壮六、升沢金平、吉野辰海、吉村益信らが出た。

主な出品作品



篠原有司男 《パリだぜ！牛ちゃんー親友、木下新に捧げる》 2020年 アクリル、キャンバス 183×435cm



赤瀬川原平
「虚虚実実実話桜画報」挿画原画 1973年
ペン、紙 27.3×19.6cm
『終末から』1973年10月 第3号掲載



吉野辰海
《1945.9 ベスとオレ》2026年
水彩、紙 30×19cm



風倉匠
パフォーマンス 《カバラ95 ブリガンガ》1995年
第7回バングラデシュ・アジア美術ビエンナーレ 撮影：澁田一正



田中信太郎
《余白の形而情一祈り》2017年
鉛、紙 38.5×26.5cm



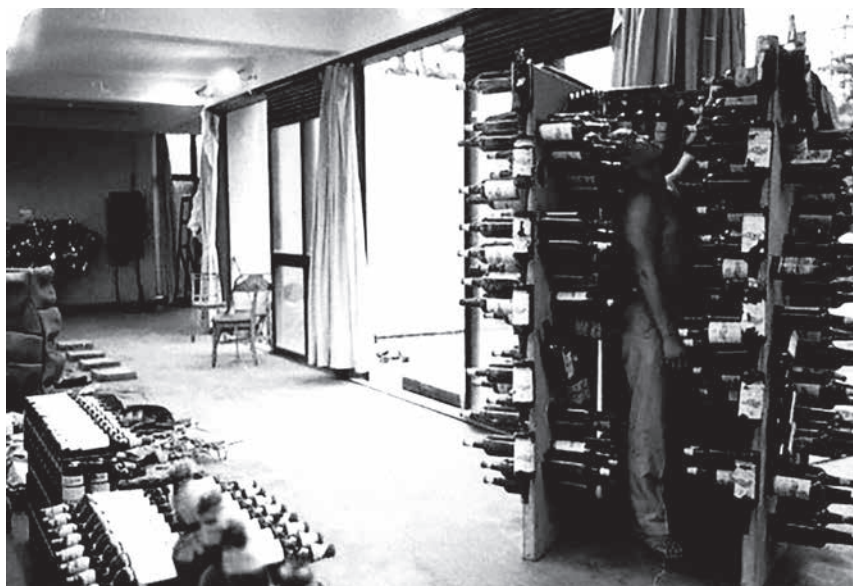
篠原有司男 (撮影:石黒健治 1960年)



「第2回ネオ・ダダ展」
作品《Danger》に火をつける吉野辰海
(撮影:石黒健治 1960年)



「第3回ネオ・ダダ展」路上でのパフォーマンス
篠原有司男、吉村益信 (撮影:石黒健治 1960年)



「第3回ネオ・ダダ展」日比谷画廊での吉村益信と作品 (撮影:石黒健治 1960年)



新宿ホワイトハウス (撮影:石黒健治 1960年)



「第3回ネオ・ダダ展」日比谷公園でのパフォーマンス
左から吉村益信、篠原有司男、吉野辰海 (撮影:石黒健治 1960年)

Profile



赤瀬川原平 AKASEGAWA Genpei(1937-2014)

神奈川県生まれ。武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)油絵科中退。1963年ハイレッド・センターを結成。千円札裁判、路上観察学会、ライカ同盟、執筆活動など芸術活動は多岐にわたる。1981年『父が消えた』で第84回芥川賞受賞。1995年「赤瀬川原平の冒険-脳内リゾート開発大作戦」名古屋市美術館。2014年「赤瀬川原平の芸術原論展-1960年代から現在まで」千葉市美術館。



風倉匠 KAZAKURA Sho(1936-2007)

大分県生まれ。武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)油絵科中退。錬金術的オブジェや巨大なバルーンを用いた独自のパフォーマンスなどを展開する。1986年「前衛芸術の日本 1910-1970」ポンピドゥ・センター、パリ。1995年「第7回バングラデシュ・アジア美術ビエンナーレ」バングラデシュ。2003年「一さわれる原風景を探す-風倉匠展」大分市美術館。



篠原有司男 SHINOHARA Ushio(1932-)

東京都生まれ。東京藝術大学美術学部油絵科中退。1969年ロックフェラー三世奨学金によりNYに渡り、永住。映画「キューティー&ボクサー」が2014年アカデミー賞ノミネート、2016年エミー賞受賞。2005年「篠原有司男 ボクシング・ペインティングとオートバイ彫刻」神奈川県立近代美術館鎌倉。2017年「篠原有司男展 ギュウちゃん、“前衛の道”爆走60年」刈谷市美術館。



田中信太郎 TANAKA Shintaro(1940-2019)

東京都生まれ。フォルム洋画研究所に学ぶ。緊張感と優美さを内包したミニマルな作品を数多く手がける。1972年第36回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。2001年「田中信太郎-饒舌と沈黙のカノン」国立国際美術館。2020年「田中信太郎-風景は垂直にやってくる」市原市湖畔美術館。2026年「田中信太郎-意味から遠く離れ



吉野辰海 YOSHINO Tatsumi(1940-)

宮城県生まれ。武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)油絵科中退。森羅万象の運動を、ユーモアと自嘲を感じさせる「犬」の形象に宿した作品を数多く作り続ける。2002年「熊本国際美術展 ATTITUDE 2002」熊本市現代美術館。2007年「六本木クロッシング2007:未来への脈動」森美術館。2012年「清水晃・吉野辰海 漆黒の彼方/犬の行方」埼玉県立近代美術館。

撮影:石黒健治 1960

写真:石黒健治 ISHIGURO Kenji(1935-)

福井県生まれ。桑沢デザイン研究所在学中に、写真協会新人奨励賞を受賞。受賞展はネオ・ダダなどを撮った「不幸な若者たち」。写真集に『広島NOW』『青春1968』『ナチュラル ONENESS』『不思議の国』など。1982年、映画『無力の王』(東映セントラル)を監督。1994年「ネオ・ダダの写真」福岡市美術館。1995年「'95ネオ・ダダ<-断面>展-記録写真を中心に-」大分市コンパルホール。